

岡山大学では、2019年度からCLSプログラムの派遣先に採択され、米国務省により選抜された全米トップクラスの大学生・大学院生に対し、日本語と日本文化を集中的に学ぶプログラムを提供しています。2020年は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行の影響で、日本への実留学はできなくなりましたが、10月6日から11月21日までの7週間、オンラインで日本語・日本文化プログラムを開講し、全米から選抜された13人の大学生・大学院生が受講しました。

10月2日の開講式は、本学及び米国側関係者と参加学生をテレビ会議システムでつないで実施されました。日本語のオンライン授業では、本学が推進するSDGs（持続可能な開発目標）をテーマに、内容に沿った動画コンテンツや教材を用意し、本学のビオトープ施設を利用した環境教育、日本文化の伝承としての茶道、地方創生としての矢掛町まちづくりを学ぶ機会を設けました。また、文化体験の時間には、ビオトープや矢掛高校の見学、茶道師範による茶道体験、インタビューを行うライブセッションを設けるなど“リモート×地域との協働”による効果的な国際交流プログラムの提供をめざしました。

加えて、本プログラムでは、本学学生がCLS学生のランゲージパートナーとして、オンライン上で一対一で日本語で交流する機会を週に2回設けました。

11月21日の閉講式でも、本学およびプログラム関係者と参加学生をテレビ会議システムで結んで実施し、7週間のプログラムを終了しました。参加学生からは「CLSのプログラムはとても楽しかったです。大変でしたが、面白いトピックで勉強できました」「CLSのプログラムではバーチャルでもたくさんの人と会えて、たくさんのことを学びました」という感想が寄せられました。本プログラムの実施によりオンラインでの国際交流プログラムの持続可能性が示され、大学のニューノーマル時代に向けての新たな取り組みとなりました。

●CLSプログラム

国家安全保障や経済発展の観点から重要な役割を果たす、ロシア語や中国語など世界15言語の人材養成を狙いに、米国務省が実施しているプログラムです。日本では2010年に受け入れがスタートし、同プログラムは国際教育・交流を専門とする米非営利団体American Councils for International Education（アメリカン・カウンスिल्ズ）によって運営されています。

関連HP：https://www.okayama-u.ac.jp/tp/topix/topix_id570.html
https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9812.html



オンラインで行われた開講式



矢掛高校生による高校案内を中継



本学教員と学生によるビオトープ紹介



オンライン上での茶道体験